新板
絵入

高祖之動揺

四之巻

遠8
1974
4

明へ 13
1914
巻 4

三本寺

雷神不動柄

目録

第一 鈴鹿馬とのと和げ物屋の名人
皆冠拍ひりてと長神の柄物
医者の新保傳てうる乳香乾臓
名老して分と捨る八女房が言義

巳之巻

第二 人の下級解るの殊肖の縁組

衣紋付の事の上に位の上

天寛の頃より付られ嫁ぎ遠戚

為月より人の為めと為者為人の和加

第三 婚礼の役者の結の事

強て寺物語を毛抜れ御

為方同縁人を通て潘方一重

安通と三献の上礼髪の衣物

一 人鳴島とゝみ和げ接待の名人

国で奏者ハ国ゟ害あり貧民て熱る者ハ己ゟ害なり富貴貪欲を

節の後ハ国家平にを方示安ーに文を此国周辺の業教ゟ貪れ者

と其ハ者ハ怪異廣人の為ぶきまあれハ搭て編せど皮信有者ハ皮信

慈ゟ利益あるものハ燒ひ恐れ今銀と金ゟ集めゟ者ハ者此二ゟの

病ゟと極て他の病ゟと親ゟず家と色を失ひ方と害ゟ為てハ

祈て悔む孫ゟ多ゟ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ

ゟ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ

位と張ゟ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ

ゟ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ

ゟ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ

宗義は手ふの出羽殿と云る人にて手ゑ[illegible]
徒者より兎角女房よりの女房あつめて[illegible]
このおぢりまや[illegible]ある時病にて腰のいたむ[illegible]
及びたりとて其按摩を呼見退安と云る[illegible]
右ふ[illegible]ゆきとさすりける往ふ[illegible]
宗義を及ぶぬ後の出羽殿の事を[illegible]
[illegible]の[illegible]に肩[illegible]
よい腰でも腰[illegible]
よびよせて[illegible]
[illegible]
女房を[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
町人[illegible]の女房[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]ばかりの[illegible]ばかりの[illegible]ばかりの

出ずまま安心に比類ひのまれ子さんれ病気。あてまれのれ不安でもかくてぶそれ
八日と称ハ例の方のみの経験でハ医者出産を安心の経験を知けずまれ
の産婦と数年数で近出さんと仕事ぶ花ぶくかく作ると右面ハ。あの乳ろ
ぶんぶ子れまいろまひ。ぶ子たぶおろて。沖本陽がみまひ。ぶ子ると。てる。
旦ぶんハ。ぶ子数もはさんなあ。ろ。ぶくと行てかて人参ハ。ぶ子ハ悔でもそろ
ずぶ。ぶ子で。ぶ子ると。ぶ子ぶ子ぶ子ハ。ぶ子ぶ子ぶ子

一新も思ひ寄らぬ事なれども、まづかうせいこんざつとこそあのろぼうみたいなるものなれども、さあ世間てのみ有りとも思へ。さあ世間てのみ有りとも思へ。さあ世間てのみ有りとも思へ。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

うけあのてぬぐひ作さまざまのしぼりこと、それら事ども八重
ぶの耳いつだけうが年ごろみまひあの姫君のゆゑ乳人達ゆゑ
古典業遠あの姫君ま事の病さらして。の志それのすれぬ病ぶ医者の中に
あつこいまれこれ病て男女共れくあきそ。でとして即数ちく。容易なる
事ぐるひ。ふ年十年かくつてそろくと捧げされ。ぶ方てら作る事もあやいを
れまびろ〳〵豊作の病れよりハ。ふ後るそろ事ハさろじとの乃安ごとむ。
それよりのそやうはあれそとそろまどとうぬの養そもそろねざ。ぬとて。
作さらすすさい作病さらするん乃安さら典業と姫ぬハ重ごの
新くこ。あのひあ乳ひ女後ぐあるまひくんと薄くわとおけ。ぬするせる今
ひ病。まて中病ひ乳ひあ中ひ作せ。ぬ作ん〳〵か。こりやひ力で胴後。即ひ病て乳ん
ぬ作ひ。ひてきあする。懸ぬたハひ作ひ。そろ〳〵ハやまひ。今のハひとんと
ひんぐうひそ。あてうひけメ人ぐるいあ。乃安さの伸乃ほあくんゆ。強こ

耳とハ作ぬれすぬまびとをおまん方ひの耳で供命ひよりとハ細れの業ハ入ろよ
いやうハ細れ。ハよいゆ〳〵ひゆ作ひ。ひとハ作ひとれよりと作ひとてのる不。業者ろまの
あひ耳人ふあ。ひて文乃者を乳ひてよりれ供ぶんひて久業強ひふれ。ひ一ヤ
さんやてうがひれた。断年者業ぬ中ろ作ひ供ぶのうハ。
病の姫ぶれつまでれ乳あんひろ〳〵姫者の中ひ乳ひ仏のみまびハ。ひるとあれよ
といひやメセ。ひ後ぶん。とぶんあせうしひ。ひ業ぶんのろれひ。ひゆと強ひ。ひよりひ
金て主人ぶんとてうと。コレ〳〵ひ業ぶれ。ひ上ハ乳人の作ぶれ。ひもちろ乳ん
ぶ乳の業ハ作ぶれまハ。ひ乳よりハ細者ひ乳ひ作ぶそ。ひ業の作ひ。ひ乳ハ
ハ細ぬ。ハ胴ひ細作ひ。ひ業ひ。ひ作ひ。ひ業ひ。ひ作ひ。ひ業ひ。ひ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

みぎのへば為おとねたゝ為ゝとれかくごとあるかるゝ。ゆかとこゝ見てハ。ゆかとこゝ見て
ゆかとうゝ。ゆかとこゝ見て。ゆかとこゝ見て姫君のうつくしゝ。伝と見ゆ。弾琴も目とゝ見てこと
まるる。姫ぜんハ喜こゝ。姫君をだきこゝ。ひとりもとるあたゝ。ゆかまわたゝ。姫の心
さたまれこゝ。ほゝ。ほゝ。ほ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ひぞうど
さくさく
あらわれ
切てゝる
ぜん四郎家を
ゑてよりて
せんぎする
つゞいてゝる
あしゆ
白状する

侍平
生長
ゆるせる
ぜんぶりと
ねゞゆうを
こゝろ
けぬき
あのんと
ぐぐ
ぜんぶ
いとよ
ゆうをを
しつゆう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あるまじきことなれば、八重なる垣根のうちに、
はなてんれよ。一篇のうたびとをんなの伝れ、そがもとに
まうで、天あまつ乙女、織ろと、医師、ふもれば、八重と、
をいつまでぞ、あらへてぞ、ぐしぐしまりぬ。
そちらは、又、のとてうちとさやぬ。母が天井まめうとあるどとのゆくむ。
されば、人、来ぬ、あの山、の、体、見いとしぬ。せ、わ、そば、寄るもぬきの
れと立てたる、人、極、月、天、の、ちぬ、のろ、八、伝、の、中、と、ぬ、後、の、れ、
うぐ、ゐ、御、中、今、山、天、井、の、中、に、織、ろ、と、ひ、ぬ、ろ、の、有、と、す、と。
物、の、者、仕、ろ、ん、有、て、山、色、て、接、ま、八、姫、ま、と、ひ、き、わ、る、宮、の、の、姫、姫
ゆ、ま、ま、有、間、と、ま、の、者、ば、ば、ま、姫、ま、と、る、ば、ひ、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
ま、
の、感、欲、た、ば、ま、
ま、ま、ま、ま

ひる天地張りある。きりかけとこそ
ゝ上八のとろかくさんたまはと女房ゆ
その程ちもうのゆ。はしのあるひはま
れらゞ角をとらへゞ角をとらへゞ
ハ主ゞ上ゞ切くしゝ迄てゆくゝ
上ゞふまゝ主ゞおとして主上ゞ
ゞ上ゞ長とあくゝたゝまはれ
ゞまゞ角ゞ角ゞ角ゞ今主ゝ上ゞ
ゞ主ゞあゞ上ゞ八ゞ
さくゝとあゞ有てゆくゝ
それをゝくゝまはゞ
ゞあゝ角あゝ情ゝ

ひる天地張りある。きりかけとこそ
ゝ上八のとろかくさんたまはと女房ゆ
その程ちもうのゆ。はしのあるひはま
れらゞ角をとらへゞ角をとらへゞ
ハ主ゞ上ゞ切くしゝ迄てゆくゝ
上ゞふまゝ主ゞおとして主上ゞ
ゞ上ゞ長とあくゝたゝまはれ
ゞまゞ角ゞ角ゞ角ゞ今主ゝ上ゞ
ゞ主ゞあゞ上ゞ八ゞ
さくゝとあゞ有てゆくゝ
それをゝくゝまはゞ
ゞあゝ角あゝ情ゝ